【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第２区分
【発行日】平成18年3月23日(2006.3.23)

【公開番号】特開2002-185073(P2002-185073A)
【公開日】平成14年6月28日(2002.6.28)
【出願番号】特願2000-384373(P2000-384373)
【国際特許分類】
Ｈ０１Ｓ　5/0683　(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　27/28　(2006.01)
Ｇ１１Ｂ　7/09　(2006.01)
Ｇ１１Ｂ　7/125　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｓ　5/0683
Ｇ０２Ｂ　27/28　Ｚ
Ｇ１１Ｂ　7/09　Ｃ
Ｇ１１Ｂ　7/125　Ｃ

【手続補正書】
【提出日】平成18年2月2日(2006.2.2)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
光ピックアップ装置の光源の発光レーザビームの光強度を制御するレーザ光強度制御装置であって、
前記光源から発せられたレーザビームの進行方向に垂直なｘ方向偏光成分及びその進行方向に平行なｙ方向偏光成分のいずれか一方の方向偏光成分の第一部分を通過させその一方の方向偏光成分の第二部分をモニタ光として反射する偏光分離手段と、
前記偏光分離手段によって反射された前記モニタ光を受光して受光強度を示す光強度信号を生成する受光手段と、
前記光強度信号に応じて前記光源を駆動する駆動手段と、
前記光源と前記偏光分離手段との間に配置され前記一方の方向偏光成分に対して垂直である方向偏光成分を遮断する光学素子と、
を備えたことを特徴とするレーザ光強度制御装置。
【請求項２】
前記光学素子は、前記レーザビームの入射面がブルースター角度だけ傾けられたガラス平板であることを特徴とする請求項１記載のレーザ光強度制御装置。
【請求項３】
前記光学素子は、偏光板であることを特徴とする請求項１記載のレーザ光強度制御装置。
【請求項４】
前記光学素子は、前記光源と前記変換手段との間に前記一方の方向偏光成分に対して垂直である方向偏光成分を遮断する向きに配置されていることを特徴とする請求項１記載のレーザ光強度制御装置。
【請求項５】
前記光学素子は、前記変換手段と偏光分離手段との間に設けられた偏光板グレーティン

グであることを特徴とする請求項１記載のレーザ光強度制御装置。
【請求項６】
前記光源と前記偏光分離手段との間に前記光源から発せられたレーザビームを平行ビームに変換する変換手段を有することを特徴とする請求項４または請求項５記載のレーザ光強度制御装置。
【請求項７】
前記光学素子はファラデー素子であることを特徴とする請求項１記載のレーザ光強度制御装置。
【請求項８】
前記光学素子は１／２波長板であることを特徴とする請求項１記載のレーザ光強度制御装置。
【請求項９】
前記偏光分離手段は、偏光ビームスプリッタであることを特徴とする請求項１記載のレーザ光強度制御装置。
【請求項１０】
前記駆動手段は、前記光強度信号が基準レベルになるように前記光源を駆動することを特徴とする請求項１記載のレーザ光強度制御装置。
【請求項１１】
前記基準レベルは可変にされていることを特徴とする請求項１０記載のレーザ光強度制御装置。
【請求項１２】
前記一方の方向偏光成分はＰ偏光成分であることを特徴とする請求項１記載のレーザ光強度制御装置。
【請求項１３】
前記光学素子は、付与される磁界の強さに比例した角度で前記レーザビームの偏光面を回転させるファラデー素子であることを特徴とする請求項１記載のレーザ光強度制御装置。